

くまのしっぽはなぜ短い

むかし、くまのしっぽはとても長かったのですよ。

あるとき、くまは、五日も六日も、何も食べないで寝ていました。目がさめたときには、お腹がぺこぺこでした。そこで食べものをさがしましたが、まわりには何もありません。くまはこまって、毎日毎日食べ物をさがして歩きました。

ある日、くまが道にそって歩いていると、むこうから、ガタガタと荷車がやって来ました。見ると、きつねが魚をつんで運んでいるところでした。くまは、

「そら、もうけたぞ」と、急いですすきのかげにかくれました。そして、荷車が通りすぎてから、そうっと荷車の荷台によじのぼりました。そして、つんである魚をもしやもしや、もしやもしや、食べはじめました。

きつねは、しばらく行ってから、車があんまり重いのでふり返ってみると、くまが魚をもしやもしや食べています。びっくりして、

「おい、くまさんよ。その魚食われたら、おれの子どもに食わせるものがなくなってしまふ。返してくれ」といいました。くまは、

「まあそういわないでくれ。わしも、長いこと何も食ってないんだ」といいました。きつねは、くまが気のどくになって、

「じゃあおまえさんに、いいことを教えてあげよう。ここから一里ほど行った先に、氷の張った池がある。その氷に小さい穴をあけるんだ。それから、しっぽの先にねずみのてんぷらをつけて、穴からおろして待っていると、魚が十ぴきくらいは食いつくよ。この魚もそうやってつったんだよ」と教えてやりました。

くまはよろこんで池に行きました。そして、氷に穴をあけて、しっぽにねずみのてんぷらをつけておろしました。しばらくすると、魚が九ひきもつれました。くまは、うれしくて、もういちどしっぽを穴に入れました。ところがこんどは、待っているうちに、ぐうぐう眠りこんでしまいました。夜がふけるにつれて、池の氷はどんどんぶあつくなくなって、ぎっしり張りつめました。

やがて、くまは目をさまして、しっぽをひっぱりましたが、しっぽは池にこおりついてどうしてもぬけません。

「やあ、たいへんだ」

くまは大きわざして、むりやりしっぽを引っぱりました。そのとたん、しっぽがつけ根からぶつり切れてしまいました。

だから、くまのしっぽは短いのだそうです。

おしまい

* 一里 やく四キロメートル

原話：『和泉昔話集』南要編／和泉郷土研究会
再話：村上郁